

令和7年度 学校評価報告書

1 実施時期

- (1) 教職員自己評価 令和7年12月 8日(月)～12月12日(金)
- (2) 児童アンケート 令和7年12月15日(月)～19日(金)
- (3) 保護者アンケート 令和7年12月15日(月)～19日(金)
- (4) 学校関係者評価 令和8年 2月 2日(月)

2 アンケート結果 (別紙)

3 成果

- (1) 学校は、時代の変化に対応した教育課程の工夫改善、教育活動の創意工夫に努めている。また教職員がチームワーク行動を発揮しながら、円滑な学校運営に向かっている。
- (2) 学校課題研究を通して、小中一貫教育の推進を目的として、特別活動の充実を図った。自主的・実践的な活動を意図的に仕組むことで、主体的に学びに向かう児童の育成に向けて取り組んでいる。
- (3) 授業はわかりやすいと回答している児童は96%。「わかった、できた」を実感できている児童が前年度から継続して高い。
- (4) 体育の授業力向上を目指し、研修を行った。
- (5) 食物アレルギーによる事故防止のために、対象児童の全保護者と管理職を含めた面談の機会を設定している。
- (6) 児童会を中心とした大石小スマイルデイの取組や生徒指導部を中心とした継続的な指導により、挨拶する児童が多くなった。
- (7) ほっとルームやひだまりルームを設置したことで、教室に向きづらい児童も登校することができ、担任も連携して、不登校支援につなげている。

4 今後の課題

- (1) 大規模校で教職員の意識にも差がみられる。組織としての共通理解をさらに深める必要がある。
- (2) 「家庭であまり読書をしていない」という意見が多い。読み聞かせ、読書パスポートの活用を推進する。
- (3) ICT端末の活用については、発達段階を考えて推進することができた。一方、SNSトラブルなども起こり、情報モラルを含めたICT活用能力を高めていくことが必要である。
- (4) 学校は、教職員が丁寧な言葉遣いや黙々清掃を率先垂範し、児童が人権意識の醸成と落ち着きのある生活ができるように、粘り強く取り組んでいく必要がある。

- (5) 体力テスト結果では、県平均を下回る種目が多い。体育授業の充実、休み時間の遊びなど、日常的に体を動かす機会を増やす必要がある。
- (6) 学校は、ホームページ及びさくら連絡網を適切に使い分け、保護者・地域への発信を充実させる必要がある。